

一九二五年に竣工した旧ダイビルは、当時の渡辺建築事務所設計で、渡辺節が設計監督、村野藤吾が製図主任、内藤多伸が構造設計をそれぞれ担当したと言われている。この旧ビルのファサードと

憶の継承を企図した。

もはや数少なくなっていた近代の歴史的建造物である旧ダイビル本館は、中之島の街の景観の大切な部分として長く人びとに親しまれてきたゆえに、その解体を惜しむ声は大きかった。一方、中之島エリアの経済ポテンシャルは時代に適合したより大規模で高性能なオフィスビルを必要としていたし、また中之島エリアの開発構想を推進することは大阪市の政策とも合致していた。そんな中で、事業者たちは、エリア全体の高容積の再開発の一部として、旧ダイビルの外観とロビーなどの公共空間を再現しつつ、現代の最新鋭高層オフィスビルの低層部を包み込むという手法を取ることで、街並みの記憶の継承を企図した。

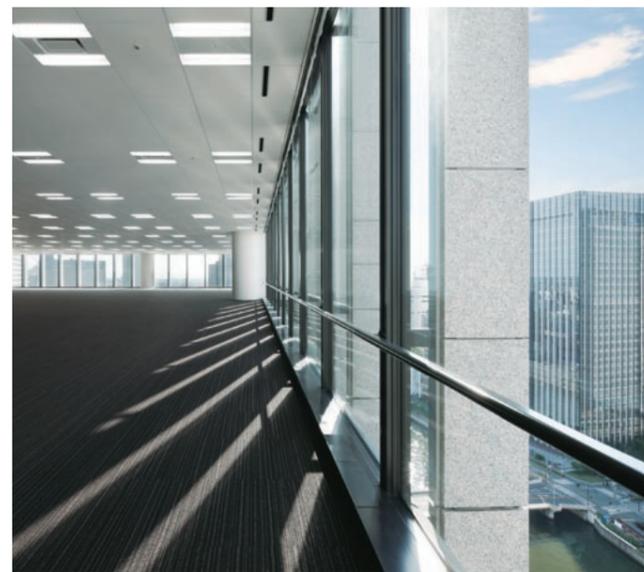
ロビー空間の再現にあたっては、その深みのある華やかさや緻密なディテールを忠実に甦らせるために、外装煉瓦や装飾石材、金物などを丁寧に取り外し、強度・性能などを試験・調査した上で、可能な限り保存・再利用が図られた。強度上問題のあった外装テラコッタや石膏格天井、そして欠落部分など新規製作部位についても違和感のない経年変化表現の工夫が施されている。その結果、再現とは思えないほどの歴史的な味わいと重厚感を醸し出す内外空間ができた。ただし、ロビー空間のガラス手摺など、現在の建築法規に適合させるために付加せざるを得ないものもあったが、全体的な空間への忠実さは失われていない。

一方、高層部のオフィスや縦動線部、そして低層部の通用口など新規につくられた部分は、一転してガラスを多用した開放的なつくりで、新旧のコントラストを明快につくり出すことに成功している。

選評



ダイビル本館・中之島 四季の丘



高層部オフィス内観。



低層と高層の対比。石材でカバーした窓の方が重厚な低層部と調和するとともに、日射除けとなって熱負荷を抑制している。



北側外観。



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー 静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall 鈴木大拙館 **ダイビル本館・中之島 四季の丘** はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅

建築主

最新鋭オフィスビルの低層部に より 歴史的建築物の意匠を復元「ダイビル本館」

本建物は、1925年の竣工以来大阪・中之島のランドマークとして長く親しまれた旧ダイビル本館を建替えたものである。建替えにあたっては、最新鋭のオフィスビルとして高い機能を持つことと歴史的景観を継承することの両立を目指した。旧建物は重厚な煉瓦の外壁と壮麗な竜山石の彫刻を特徴とする名建築と評されていたが、復元にあたっては、設計者・施工者の多大な工夫と努力により外

装煉瓦や石彫刻など多くの素材を再利用することができ、往時の佇まいを感じられる空間が復元されたと感じている。また、敷地西面には関電不動産開発株式会社と共同で四季折々の花木を楽しむことができる「中之島 四季の丘」を整備した。気候の良い時期には散策する人も多くみられ、憩いの空間として親しまれている。今後も開発並びに建物の運営管理を通じて都市の発展に貢献していきたい。



ダイビル株式会社
取締役常務執行役員
矢田豪男
Takeo Yada

設計者

より

90年の時間を刻む素材の力



株式会社日建設
設計部門理事副代表
設計部長
勝山太郎
Taro Katsuyama

旧ダイビル本館は質実な中に多彩な装飾が施されたネオロマネスク様式のデザインに加え、長い歴史を刻むレンガやレリーフ石材の深みある質感が街の人々の心を引き付けてきた。再生にあたり、丁寧に取り外し洗浄したレンガを保管先で敷き並べた際の驚きは今でも覚えている。レンガ一つひとつが本当に多彩な色合いを持ち、新しく創ることでは生み出しようがない往時の焼き物の味わいと美がそ

こにあった。その圧倒的な力を持つ素材を引き立てるために、設計では新旧の対比を強く意識した。そして未来に生きるビルとして現代技術による素材表現や環境手法もふんだんに盛り込んだ。事業主のビル創り・まち創りへの熱い想いを設計者・施工者が共有し、90年前の手仕事をまさに現代のクラフトマンシップで継承・再生し、街に新たな歴史の厚みを与えることが出来たのではないかと思う。

施工者

より 外装煉瓦や装飾石材などを再利用し 旧ダイビル本館の歴史を継承

歴史的建造物を忠実に再現するため、再利用が可能な煉瓦、石材、テラコッタ等の外装材、タイル、手摺等の内装材を丁寧に取り外し、補修・洗浄することから工事が始まった。全ての部材に経年変化による豊かな表情を感じるが、外装の煉瓦は、現代の窯では再現できない色幅を持っていたため、傷を付けないように手作業で一つずつ取り外し、付着したモルタルを丁寧に除去した。装飾石材については、RC躯体をその

まま切り出して汚れや補修跡を洗浄した。劣化や損傷により往時の意匠が不明な部分については、過去の写真や資料を何度も確認し、その再現に努めた。多くの部材を再利用しているが、強度や耐凍害性、層間変形追従性等の試験を行い、建物の高い安全性を確認済みである。発注者・設計者・施工者が力を結集し、中之島の地にかつての景観を継承することができた。



株式会社大林組
ダイビル・ウエスト
工事事務所 副所長
石井友人
Tomohito Ishii



1階街テラス席。中之島の街に新たな活気と賑わいの場を生み出している。

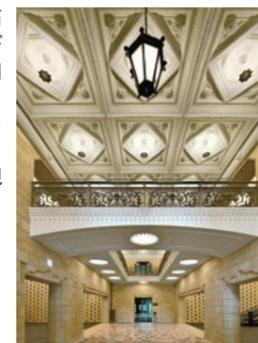
「選考委員」
小泉雅生・六鹿正治・田中隆吉

低層部から若干セットバックさせた高層部のオフィスではエレベータ、各階のエレベーターホールや手洗いなどに自然光を取り込むプランが採用されている。外装は個性を主張しすぎない縦連窓形式が取られているが、アルミ芯材を石材でカバーしたマリオンは日射除けルーバーとしての機能が期待されている。

実際、旧ビルを再現した低層部のうち地上部にはしゃれた飲食店舗などが入り、テラス席が設けられるなど、周辺の街並みに明らかに他とは違う雰囲気と活気をみながら吸引力を発しているようだ。なお、この再開発には、河川水をヒートポンプ利用した地域冷暖房施設が通路を隔てた隣接地下に設けられ、その地上部が「中之島 四季の丘」と名付けられた丘陵状の緑地となっている。

右／再取付された石柱。長年、地域の人びとに親しまれてきた旧本館のファサードとロビー空間は、深みのある華やかで緻密なディテールまで忠実に再現されている。

左／再利用材で復元した玄関ホール。



計画概要

建築主：ダイビル(株)
関電不動産(株)

設計者：(株)日建設

施工者：(株)大林組

所在地：大阪府大阪市北区中之島3-6-32
竣工日：平成25年2月28日

敷地面積：21,089.32㎡
建築面積：4,575.02㎡
延床面積：53,030.40㎡

階数：地下2階、地上22階、塔屋2階
構造：鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
鉄筋コンクリート造